

設問1

退院後の地域の脳卒中患者の転倒について正しいものはどれか、1つ選べ。

A1	安全を優先させた戦略をとるため、ほとんどの患者は転倒経験がない。
A2	約半数近くは、転倒を経験している。
A3	重症度に関係なく全ての患者は転倒を経験している。
A4	脳卒中患者は活動量が低下し、座りがちになるため転倒がない。
A5	脳卒中患者は若年の方が活動量が少なく、転倒しやすい。

正解 A2

地域の脳卒中患者はバランス障害を呈することが多く、約半数近くの患者が転倒を経験している。

設問2

急性期脳卒中患者のリスク管理と早期離床について誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	急性期脳卒中患者では、病態に応じて医師に相談してリスク管理を行う。
A2	急性期のリスク管理は、自覚症状や他覚症状、神経脱落所見とバイタルサインから判断する。
A3	神経脱落所見が悪化している際も、離床練習を継続する。
A4	人工呼吸器管理下であっても、呼吸や循環動態が安定していれば離床は可能である。
A5	早期離床時のリスク管理として血圧、心電図、酸素飽和度などのバイタルサインの測定が行われる。

正解 A3

離床開始の一般原則に神経脱落所見の悪化がないことが示されているため、神経脱落所見が悪化している際は、離床練習を中止する必要がある。

設問3

くも膜下出血の疫学や急性期の病態について誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	脳血管攣縮が生じる。
A2	重症例では神経原性肺水腫が生じることがある。
A3	最も多い原因は脳動脈瘤である。
A4	男性に多い。
A5	低ナトリウム血症が生じやすい。

正解 A4

くも膜下出血は女性に多い。

設問4

脳血管疾患におけるリハビリテーションについて誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	急性期では十分なリスク管理が必要なため、積極的なリハビリテーションは避けるべきである。
A2	回復期では歩行障害が軽度の患者に対して、有酸素運動や筋力増強訓練を行うことが勧められる。
A3	生活期ではグループ訓練やサーキットトレーニングを行うことが勧められる。
A4	生活期では歩行機能を改善するために、もしくは日常生活動作を向上させるために、トレッドミル訓練、歩行訓練、下肢筋力増強訓練を行うことが勧められる。
A5	どの病期別においても積極的なリハビリテーションをする必要がある。

正解 A1

急性期では、十分なリスク管理のもとに、積極的なリハビリテーションを発症後できるだけ早期から行うことが勧められる。

設問5

介護保険法の内容として誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	医療従事者の意見に基づいて、介護保険サービスは決定される。
A2	被保険者自身も健康の保持増進に努めるものである。
A3	要介護状態となった者の尊厳を保持することも目的に含まれる。
A4	介護保険サービスは、要介護状態等の軽減又は悪化の防止を資するよう行われる。
A5	完全に自立した日常生活ではなく、有する能力に応じた自立を目指している。

正解 A1

被保険者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、被保険者の選択に基づいて、介護保険サービスは決定される。